

豊田市都心地区空間デザインをかんがえる

第1回 市民ワークショップ

平成 28 年 6 月 5 日（日）10 時 00 分～12 時 00 分
とよた参合館 6 階多目的ホール

座 長：小林正美（明治大学 教授）・星野裕司（熊本大学大学院 准教授）

参 加 者：48 名 ※つくるチーム：8 人、つかうチーム：3 人

配布資料：第 1 回市民ワークショッププログラム、都心環境計画（概要版）

開催内容

1. 小林座長より、姫路駅前広場整備における市民参加デザインプロセス紹介

2. 5/15 市民ワークショップ（キックオフ）の報告

3. つくるチームより、

- ①都心地区空間デザインコンセプトの説明
- ②名鉄豊田市駅を中心とした東西のつながり方の説明
- ③西口ペデデッキアーチの扱いの説明
- ④とよた未来デザインセンター（仮）の説明

4. 全体議論での主な意見（話題となった内容・特徴的な内容）

- ・豊田市駅の 1 F 2 F の自由通路が広がるのはよいと思う。
- ・50 年先を見据え、ツギハギの計画ではなく、駅を根本から作り直してほしい。
- ・駅前に情報が無く、各施設が連携しない。動線や視覚的に東西が繋がることで、回遊性も生まれると思う。
- ・現在は足し算で出来た街になっており、それが繰り返されないか心配している。
- ・高齢者の世代になり、車を止めてから街が不便になった。高齢化を考えると、車社会から公共交通&歩行者優先への都心と大きく舵を切るべきだ。
- ・よいと思うが、東西のつながりが出来たからといって人は集まらない。集客の仕方について議論すべき。
- ・構造物に囲まれた街である。子供たちを育てたいと思えないまち。もっと自然を感じられるようなまちづくりが必要。

5. 当日の結論

- ・豊田市駅については、自由通路を広げ、東西をつなげる方向性で協議を行っていく。合わせて、先を見据えた根本的な見直し案も検討する。
- ・西口ペデデッキアーチについては、参加者の全員が撤去してもよいという考えであった。撤去可能かどうかを丁寧に今後議論していく。
- ・とよた未来デザインセンター（仮）の設置の検討を行っていく。